



アップルウォッチを腕に付け、宮本マネージャー⑤に操作を教わる三村知事

## 県職員の健康管理します

### アプリ開発 マルマン(弘前) 来月から検証

ソフトウェア開発を手掛ける弘前市のマルマンコンピュータサービスの長内睦郎社長らが20日、県庁に三村申吾知事を訪ね、スマートフォン向け健康管理アプリ「健康物語」の開発を報告した。同社は12月から来年2月、県職員を対象にアプリの使用感を検証する。

アプリは、文部科学省などによる研究プロジェクト「COI(センター・オブ

・イノベーション)」の一環で、弘前大学と連携して開発、既に公開している。体重や血圧、体温、歩数などのデータを入力して管理するほか、携帯電話回線に接続できる腕時計型端末「アップルウォッチ」などを使うことで、脈拍や心拍数が計測できるようになる。日々の細かなデータを記録することで、生活指導につなげられるという。

20日は、同社企画・営業

部の宮本真弓マネージャーが三村知事にアップルウォッチを使用したアプリの操作方法を説明。アプリの性能を検証するため、県職員50人に3カ月間アップルウォッチを貸し出し、アンケートを行うことを提案した。

三村知事は「県民の健康増進にかなり強力なツールになるのでは」と期待し、長内社長は「短命県返上のために(病気の)一歩手前の)未病を本人に自覚させるきっかけとなれば」と語った。

(山本光)